



2019 年度（令和元年度・第 5 期）

# 事業報告書

1. 2019 年度を振り返って
2. 2019 年度 事業報告書
  - ・ 全体概要および事業内容補足事項
  - ・ 運営に関する事項
3. 2019 年度 活動計算書
4. 2019 年度 貸借対照表
5. 2019 年度 財務諸表の注記
6. 2019 年度 財産目録
7. 監査報告書

認定特定非営利活動法人ポケットサポート

# 1. 2019 年度を振り返って

2019 年度は 2025 年ビジョン「病気を抱える子どもが、将来に希望を持ち自分らしく暮らせる社会をつくる」を策定し、大きく 3 つのミッションの下に事業を進めてきました。

## Mission

(ポケットサポートが社会で果たすべき使命)

- ①環境をつくる
- ②生きる力を育む
- ③人や気持ちを繋ぐ

1 つ目のミッション「環境をつくる」では、病気を抱えていても子どもらしい時間が過ごせるように学習や復学自立支援を行っています。2019 年度も岡山市小児慢性特定疾病児童等相互交流支援事業を中心に、病院の中で頑張っている子どもたちや、地域で療養しながら生活している子どもたち、きょうだい、家族との関わりを進めてきました。支援拠点や病院の中でも交流はもとより、自宅療養中の子どもたちへの支援や、双方向 WEB 学習支援など、さまざまなシーンで子どもたちと関わってきました。季節ごとに行われる交流イベントでは、参加者が、安心・安全な環境の中、笑顔あふれる「子どもらしい時間」を過ごす姿が見られました。そこで出会った子どもたちが交流を深め、友人関係を築いていく様子も感じられました。



また、小学生の頃から関わってきた子たち 3 人が受験を迎えた年でした。学校の卒業を祝して、お祝いのメッセージを寄せ書きした色紙などを送り、スタッフみんなで治療を乗り越えながら前へ進んでいく彼らの頑張りを認め、学習はもちろん気持ちの面でも支えてきました。その全員がこの春から志望していた学校への進学や、就職などをするようになりました。子どもたちや家族と長く関わっていける NPO 法人だからこそ、その成長していく姿が見られることは、スタッフみんなの喜びに繋がっています。



2 つ目のミッションである「生きる力を育む」では、病気による困難を抱えていても前向きに生きていけるよう当事者や専門家と共に取り組んでいく中で、とても印象的な出来事がありました。小児病棟へ同じ時期に入院をしていたけれども子ども同士の関わりがなかった 2 人の子どもがいました。最初はふさぎこんでいた A くんが少しずつポケットサポートの交流を通して治療にも前向きになり学習を始める、そんな姿を医療者や家族に感じてもらうことができました。そうしていく中でもう一人の B さんが、また A くんたちの姿を見て一緒に交流を重ねていったことで、自分の病気と向き合いながら病院の中でも「本来の自分らしい姿」を見せてくれるようになったシーンがありました。自分だけがしんどい思いをしているんじゃない「ひとりじゃない」と思える瞬間、同じように闘病している仲間や支える支援者がいてこそ生まれる関係性でした。こういった一人ひとりの出会いが病気の子どもの「生きる力」を育んでいきます。その子どもたちの姿に励まされ、私たちも日々の支援をより一層頑張ろうと思えます。

3つ目のミッション「人や気持ちを繋ぐ」、病気の子どもに関わる人たちを繋ぐコーディネートを行うと共に、社会への理解啓発を行い理解者・支援者を増やしていく取り組みでは、支援者育成にも力を入れ、大学生の学習支援ボランティアの育成やフォローアップを行うことができました。様々な有識者の先生方の協力もあり、現職の医療者や学校関係者とも研鑽を積む機会を設定することもできました。夏には京都のアパレルメーカーJAMMINとのコラボレーションによって、さまざまな支援者の方々にファッションを通じてポケットサポートが解決を目指す社会の課題を知っていただくことができました。その他、講演などの依頼も増え、さらに私たちの取り組みを雑誌やメディアに取り上げていただくこともあり、活動の広がりや思いを伝える場が増えてきたと感じています。



2020年初頭に起こった、新型コロナウイルス(COVID-19)による感染症が全世界に猛威を振るっています。まだまだ予断を許さない状況で、収束の目処も立っていません。慢性疾患などの病気を抱える子どもたちは、感染症に罹ることで持病が重篤化することや他の疾患を引き起こす原因となることがあります。スタッフの中にも疾患を抱える者も多く、2月25日以降、子どもたちと直接交流する支援を一部休止せざるを得ませんでした。

そのような状況の中で、設立来培ってきた双方向のWEB学習支援やインターネットの動画配信によるイベントの中継など、私たちだからこそできる新たな支援の模索を行う結果となりました。

今まで院内学級の設置が困難だった、高校生年代の入院している子どもたちへの遠隔授業の補助も2019年度から、岡山県教育庁特別支援教育課の専門家チームとして行ってきました。

奇しくも、遠隔授業やオンライン学習がこのような形で容認が進むことで今後の病弱教育にも大きな影響がでてくると感じています。また、支援活動の中で大切な感染症対策においても、国民の多くに周知徹底されることとなりました。今後、季節性の感染症が流行る時期にも同じように感染症対策が共通認識とされることで、病気を抱える子どもたちが安心して過ごせる地域や社会に一步近づくことになるとも考えられます。

このように、病気を抱える子どもたちやその家族が以前から抱えていた課題そのものが現代社会に降りかかってくることとなりました。様々な社会の課題において、自分は関係ないと「他人事」と感じる状況では進まないことも、「自分事」と捉えることで課題解決に向かうスピードが促進されます。現時点ではまだ今後の展開に予断を許さない状況ではありますが、課題というピンチを、解決というチャンスに変えられると信じながら、できる事業を着実に進めていきたいと思えます。

これからもポケットサポートは2025年ビジョンを達成するために、さまざまな機関と連携しながら事業を進めて参ります。目の前にいる仲間たちや、関わってくれる全ての人たちの命、生活を大切にしながら支援活動に邁進していきます。この1年も変わらず、病気による困難を抱える子どもたちを支える支援団体として、認定NPO法人ポケットサポートの応援をお願いいたします。

代表理事 三好 祐也

## 2. 2019 年度（令和元年度・第 5 期）事業報告

### (1) 病弱児の身体的精神的状態に合わせた学習復学支援事業

事業名	事業内容	区分	支出	受益対象・人数
個別学習支援	自宅療養中や復学初期の子どもに対しての学習サポート	自主	1,182,723	小中高校生 のべ約 50 名
双方向WEB 学習支援	ICT 機器や WEB を活用した学習支援および学校と医療機関をつなぐ中間コーディネート	助成	782,718	小中高校生 のべ約 20 名
ボランティア育成	学習支援及び相互交流支援を行う人材育成、ボランティアリーダー育成	助成	357,668	大学生 のべ約 80 名
小計			2,323,109	

### (2) 病弱児同士の交流や集団での学習活動支援事業

事業名	事業内容	区分	支出	受益対象・人数
ポケットスペース運営	利用者の環境に応じた相互交流、ピアサポート相談、学習支援を実施	受託	2,621,121	小児慢性特定 疾病児童等 のべ約 300 名
体験交流イベント	季節に応じた交流イベントの開催	自主	499,636	小中高校・若者 のべ約 60 名
きょうだい・家族ケア	当事者同士の語りによるピアサポート、自分らしい家族形成支援	自主	37,870	当事者保護者 のべ約 30 名
小計			3,158,627	

### (3) 病弱児への支援に関する啓発・講演活動及び講師派遣事業

事業名	事業内容	区分	支出	受益対象・人数
講師派遣事業	大学等に派遣し病弱児支援について広報、周知活動	謝金	274,156	講演等参加者 約 1,200 名
副島先生講演会	病弱児の教育や療養環境についての講演会	補助	305,107	地域支援者等 約 130 名
学習支援ボランティア 成果発表パネル展示	日々の活動での成果や今後の課題・目標等 学生ボランティアが展示パネルを制作・発表	助成	86,932	地域支援者等 約 40 名
病弱児を支える地域支援 ネットワーク作り	課題や現状を地域の支援者が共有、 安心して過ごせる地域基盤づくり	助成	310,453	地域支援者等 約 100 名
小計			976,648	

事業費計：6,458,384 円

## 個別学習支援、双方向WEB学習支援



▲支援拠点での個別学習支援風景



▲双方向WEB学習支援用ICT機器

### 【個別学習支援】

- ・支援拠点（ポケットサポート事務所）や自宅に訪問して年間44回実施した。
- ・自宅療養中の自宅へ訪問での学習や復学支援、テスト勉強や受験勉強など、それぞれのニーズに合わせた支援を、学習支援員が行った。
- ・岡山市保健所や医療機関スタッフからの紹介や、イベントに参加した子どもへの支援が始まるなど、様々な依頼に対応することができた。

### 【双方向WEB学習支援】

（ベネッセこども基金助成事業）

- ・ノートパソコンやWEBカメラなどを活用したオンライン学習支援を年間20回実施した。
- ・子どもたちの体調に配慮しながら在宅療養中の自宅などを結んで、試験勉強や入院中に勉強できなかった学習空白を補う支援を行った。
- ・岡山県教育庁特別支援教育課の専門家チームとして、学校と入院中の病室を結ぶ遠隔授業導入の補助も行った。

## ボランティア育成(新規ボランティア研修、フォローアップ研修)

### ■新規ボランティア説明会および初回研修

開催日：2019年4月20日、7月20日

- ・岡山県内の大学窓口、団体ホームページよりボランティアを募集
- ・説明会及び初回研修を受講後に活動開始
- ・年間で新規ボランティア登録者24名

### ■フォローアップ研修

開催日：2019年7月20日

- ・外部講師による感染症対策や心理的ケア研修
- ・別途、交流イベントの企画運営による研修実施



▲新規ボランティア説明会および初回研修風景

## 慢性疾病を抱える子どもの相互交流を支援する「ポケットスペース」

- ・支援拠点（ポケットサポート事務所）と岡山市内2カ所の医療機関で年間125回実施した。
- ・支援拠点での活動では年間述べ44人の小学生から高校生までが参加した。また、市内2カ所の小児病棟でも述べ133人の子どもや保護者と交流や学習支援などを利用した。
- ・知育ゲームでの交流や、長期療養中の学習空白を埋める学習支援、試験勉強や復学等に関する相談や、同じような長期療養経験のある当事者ピアサポート相談など活動内容は幅広い。
- ・外部有識者による研修を受講した学習支援ボランティアが参加し活動するなど、支援従事者は年間述べ394人が関わった。
- ・支援拠点や医療機関での活動前の問診チェックや看護師との連携など、感染症対策を行い安全な支援を提供することを心がけた。

- ・2020年2月25日以降は岡山市保健所と協議し、新型コロナウイルス感染拡大防止のための支援拠点及び医療機関での対面活動を休止した。



岡山市小児慢性特定疾病児童等相互交流支援業務

## 体験交流イベント

季節ごとに行う交流イベントや体験学習は、スタッフや学習支援ボランティアを中心に企画運営を行った。新型コロナウイルス感染拡大防止策として3月はYouTubeライブ配信により、自宅や病院でも楽しめる企画として盛況であった。

(1) 夏祭り交流会：参加者33名

日時：8月25日 会場：きらめきプラザ

(2) 秋イベント：参加者16名

日時：10月27日 会場：きらめきプラザ

(3) クリスマス会：参加者33名

日時：12月21日

会場：岡山県生涯学習センター

(4) 宇宙クイズ&紙飛行機作り：視聴者80名

日時：3月28日 会場：Youtubeライブ配信



▲夏祭りの様子（オリジナルうちわづくり）



▲宇宙クイズ（事務所からYoutube配信する様子）

## きょうだい・家族ケア

- ・交流イベントに合わせて、保護者同士で日頃の悩みを相談、闘病経験のある家族からの話を聞ける場「ほっと安心スペース」を開催した。
- ・保護者同士のつながりはもちろん、きょうだいも参加できるイベントになり、それぞれが心を開き、様々なことを話せる場となっている。



▲毛糸を使ったクリスマスツリーづくりの様子

## 講師派遣事業

2019年度は、年間17回(内、大学や専門学校、高等学校で8件)の講演を行った。テーマは病気の子どもたちが抱えている思いや、彼らの置かれている環境について、病気の子どもたちへの教育支援や自立支援に関することなど多岐に渡った。また、代表の三好が自らの闘病経験を話することもあった。聴講者は学生、医療関係者、特別支援学校関連、企業の関係者など様々であった。今年度も県外からの依頼も多数あり、福岡、京都、香川などでも講演を行った。

### 【2019年度実績】

- ①4月15日：病弱者心理・整理・病理学概論  
場所：岡山大学教育学部 約50名
- ②5月7日、10日：発達障害教育概論  
場所：岡山大学教育学部 278名
- ③5月30日：岡山大学経済学部講義 約20名
- ④6月14日：岡山・建部医療福祉専門学校  
特別講義 約100名
- ⑤7月9日：中国銀行小さな親切運動 講演  
場所：サンピーチ OKAYAMA 約40名
- ⑦8月3日：第2回小児がんの子どもの教育を考える講演会 特別講演、パネリスト  
場所：九州大学医学部百年講堂大ホール 115名
- ⑧8月20日：中国四国地区病弱虚弱教育研究会  
場所：ピュアリティまきび 15名
- ⑨10月18日：G20保健大臣会合前夜祭  
岡山市での取り組み  
場所：ランチ北長瀬ハッシュタグ 約40名
- ⑩10月29日：岡山北ロータリークラブ例会講演  
場所：ホテルグランヴィア岡山 約30名
- ⑪10月29日：ノートルダム清心女子大学  
特別講義 90名
- ⑫11月1日：学習支援事業推進に関する相談助言  
場所：北九州市立小児慢性特定疾病支援室  
福岡教育大学3名
- ⑬11月12日：岡山県立真庭高等学校落合校地  
特別講義 21名
- ⑭11月16日：吉備中央町福祉まつり  
特別講演 約300名
- ⑮12月2日：岡山大学経済学部大学院 約10名
- ⑯12月27日：未来 ISSEY ボランティア研修  
場所：香川大学医学部キャンパス 37名
- ⑰1月10日：近畿・東海・北陸地区病弱教育研究連盟 特別講演  
場所：ルビノ京都堀川 25名
- ⑱10月9日：タケダウェルビーイングプログラム  
冊子対談インタビュー取材

## 副島先生講演会

毎年恒例となっている「赤鼻のセンセイ」こと副島先生による講演会を今年度も開催した。院内学級（病院の中の学校）の子どもたちとの関わりから相手の気持ちや感情を大切にすることを通して、参加者の心が元気になるメッセージを送っていただいた。

開催日時：2019年8月10日（土）

会場：岡山大学鹿田キャンパス J ホール

補助：岡山市人権啓発活動補助事業



## 学習支援ボランティア成果発表パネル展示

大学生のボランティアたちによる、活動成果の発表パネル展示を実施した。大学や学部、学科の違う6名の学生たちが、当団体のボランティア活動を通して学んだことやこれから活かしていきたいことなどをポスターで展示・発表した。

開催日時：2020年2月11日（火・祝）

会場：岡山大学鹿田キャンパス J ホール

助成：公益財団法人 石川文化振興財団



## 病弱児を支える地域支援ネットワーク作り

「学ぶことは生きること」をテーマに、認定NPO 法人ラ・ファミリエ（愛媛）、NPO 法人チャイルド・ケモ・ハウス（神戸）と共に活動紹介と地域で暮らす病気を抱える子どもたちを支える取り組みについてトークセッションを行った。

また、現地に来られない方へも YouTube 配信を行い、東京や愛知、福岡等から視聴があった。

開催日時：2020年2月11日（火・祝）

会場：岡山大学鹿田キャンパス J ホール

助成：MDRT Foundation-Japan 助成事業





## 運営に関する事項

### (1) 総会

通常総会	開催日	2019年6月8日(土)
	場所	ポケットサポート事務所(岡山市北区奥田本町22-2)
	出席	社員総数30名のうち26名出席(表決委任状を含む)
	決議事項	・2018年度(平成30年度・第4期)事業報告及び決算報告について

### (2) 理事会

第1回	開催日	2019年5月5日(日)
	場所	ポケットサポート事務所(岡山市北区奥田本町22-2)
	出席	理事3名、監事1名(本人出席4名、委任状0名、欠席0名)
	決議事項	・平成31年度事業計画について ・平成31年度活動予算について ・総会開催に付随する事項について ・事務所光熱費について
第2回	開催日	2019年6月8日(土)
	場所	ポケットサポート事務所(岡山市北区奥田本町22-2)
	出席	理事3名、監事1名(本人出席4名、委任状0名、欠席0名)
	決議事項	・役員の改選について ・代表理事の互選について
第3回	開催日	2019年10月22日(火)
	場所	ポケットサポート事務所(岡山市北区奥田本町22-2)
	出席	理事3名(本人出席3名、委任状0名、欠席0名)
	決議事項	・増税に伴う個別支援料金について ・予防接種補助について
第4回	開催日	2020年3月20日(金)
	場所	ポケットサポート事務所(岡山市北区奥田本町22-2)
	出席	理事3名(本人出席3名、委任状0名、欠席0名)
	決議事項	・令和2年度事業計画について ・令和2年度予算案について ・令和2年度役員報酬について ・講師謝金規定について ・社員の雇用継続について

(3) 補助金・助成金

補助・助成機関名（順不同）	内 容	金 額
公益財団法人ベネッセこども基金	病気を抱える子どもの ICT を活用した 学ぶ意欲支援事業	650,000
公益財団法人福武教育文化振興財団	インクルーシブ教育による 病気を抱える子どもの交流企画と実践	200,000
MDRT Foundation-Japan	病気を抱える子どもの支援ネットワーク作り	200,000
公益財団法人石川文化振興財団	大学生ボランティアによる活動成果展示	50,000
岡山市 人権啓発活動補助金	病気を抱える子どもたちの 教育支援を考える講演会開催補助	132,500

(4) 受託事業

委託元	内 容	金 額
岡山市	岡山市小児慢性特定疾病児童等相互交流支援業務	1,800,000

(5) 外部委員会への参加など

委員会等名（順不同）	委員名
SDGs ネットワークおかやま 副会長	三好 祐也
岡山県特別支援教育専門家チーム員	三好 祐也
岡山県院内学級連絡協議会	三好 祐也